



関門地域の新たな連携・交流をめざして

# 関門海峡道路



## 関門海峡道路とは

関門海峡道路とは、本州（山口県下関市）から関門海峡を横断して九州（福岡県北九州市）に至る海峡横断道路です。

関門海峡は、古くから海上、陸上交通の要衝として国の発展を支えてきましたが、新たな海峡横断道路で結ばれることによって、関門海峡を挟んだ両市並びに九州と本州の交流がより活発になり、地域の発展につながるものと期待されます。

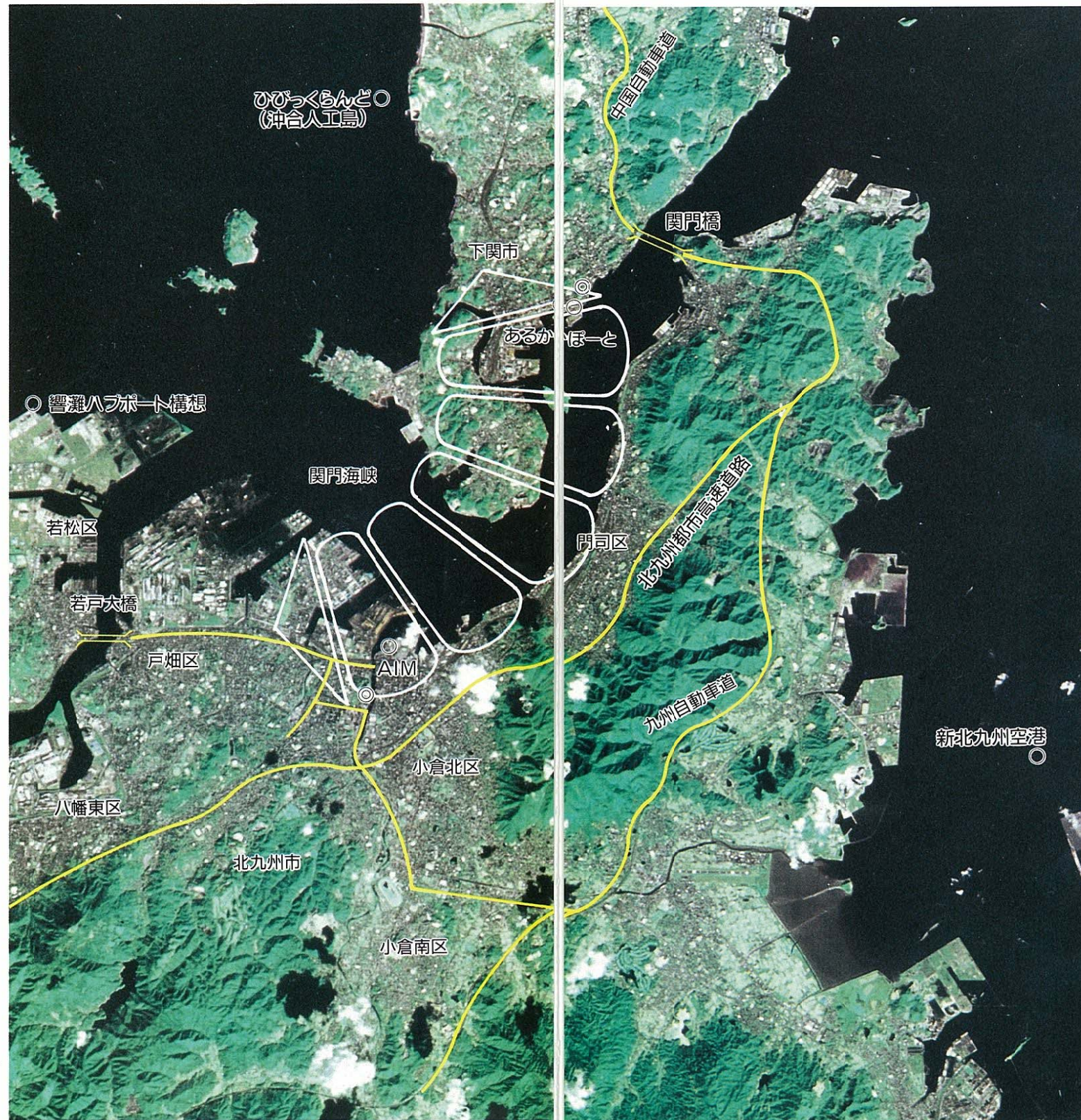
### 計画の概要

- 起点：山口県下関市
- 終点：福岡県北九州市
- 関連する計画道路：下関福岡連絡道路（地域高規格道路候補路線）
- 既存道路施設  
関門トンネル（一般国道2号）：昭和33年開通  
関門橋（関門自動車道）：昭和48年開通

■ ひびくらんど（下関市）



■ 響灘ハブポート構想（北九州市）



## 関門海峡道路の必要性と役割

1. 関門海峡道路は、中国自動車道や九州自動車道、北九州都市高速道路等と一体となって関門海峡における多重的な自動車専用道路網を形成し、九州と本州相互の経済・文化交流を促進します。
2. 関門海峡道路は、将来交通需要から交通容量に不足が生じる関門断面（関門橋、関門トンネル）における良好な需給バランスを保ちます。
3. 関門海峡道路は、他の交通機関と連携し、国際化の流れの中で総合的な交通の効率化を図ります。

4. 関門海峡道路は、他の幹線道路と一体となって、広域的な幹線道路ネットワークを形成することにより、災害時等の代替路線の確保を図ります。

5. 関門海峡道路は、下関市と北九州市あるいは山口県と福岡県等の連携交流を強化し、行政の枠を越えた新たな生活・経済圏の形成を促進します。

6. 関門海峡道路は、多極分散型国土の形成という観点の「環日本海経済圏」及び「西瀬戸ネオソフト交流圏」における新たな東西交通軸（日本海国土軸）の一翼を担うものであり、全国的な交流の促進を図ります。

7. 関門海峡道路は、関門地域及び周辺地域の自然と産業が融合した新しい生活圏域の形成や周遊型リゾート地域を創造し、当地域の活性化、振興を促進する道路として期待されます。

■ あるかぼーと下関



■ アジア太平洋インポートマート：AIM（北九州市）





## 関門海峡地域の概況

関門海峡は、古くから本州と九州を結ぶ陸上、海上交通の要衝の地として重要な役割を果たしてきました。歴史的には、源平合戦における「壇ノ浦の戦い」や、宮本武蔵と佐々木小次郎による「巖流島の決闘」などの話でも有名です。

この関門海峡の本州側に位置する下関市は「ふぐ」の名産地として知られ、九州側に位置する北九州市は従来から「鉄鋼の街」として有名でしたが、近年スペースワールドや海峡メッセ下関が建設されるなど、新たな都市構造への転換が進められています。

海峡部における交通施設は、鉄道、道路、フェリー等がありますが、道路については、昭和33年に関門国道トンネルが開通し、昭和48年には、全国的な高速道路網の一環として関門橋が開通し、現在に至っています。

- 道路：国道2号（関門国道トンネル：S33～）、関門自動車道（関門橋：S48～）
- 鉄道：JR在来線（関門鉄道トンネル：S17～）、山陽新幹線（新関門トンネル：S49～）
- 航路：関門汽船（M22～）、関門海峡フェリー（S51～）、スペースクルーズ（H2～）

### 巖流島（下関市）



### ふくせり（下関市）



### 海峡メッセ下関



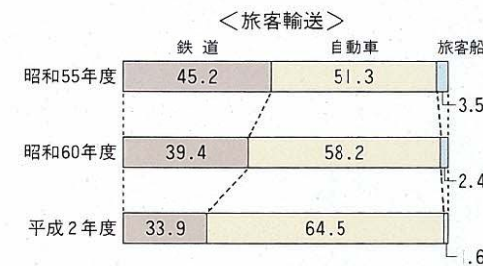
## 交通の現況

### 本州九州間の交通機関別輸送量

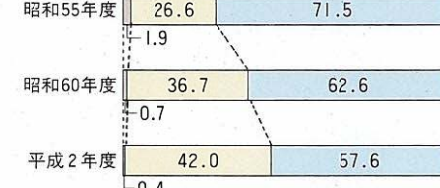
九州と本州の旅客輸送量は、平成3年で8,390万人を数えますが、機関別には自動車が43.9%で最も高く、以下鉄道(30.6%)、航空・旅客船(25.5%)となっています。

また、関門海峡断面(山口県～福岡県間)でみますと、旅客、貨物ともに自動車の分担率が年々高まってきており、昭和55年から平成2年までの10年間で約15%上昇し、輸送量では約1.5倍に増加しています。

#### 旅客・貨物輸送の機関分担割合(%) (山口県↔福岡県)

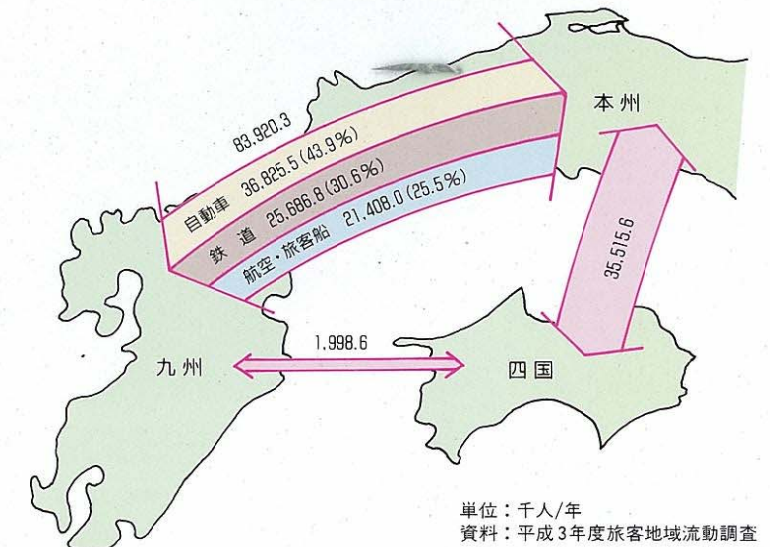


#### 貨物輸送



資料：各年度旅客・貨物地域流動調査

#### 旅客地域間流動(平成3年)



### 自動車交通量の推移

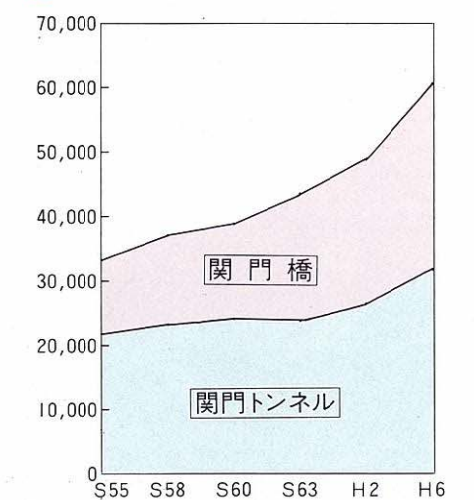
関門海峡断面の自動車交通量は、関門トンネルと関門橋をあわせると約6万台/日以上(平成6年)で、昭和55年当時からみると2倍近い交通量となっており、特に関門橋は2.5倍以上と急増しています。

#### 道路交通センサスによる日交通量

	関門断面		計
	関門トンネル	関門橋	
S55	21,544 (1.00)	11,317 (1.00)	32,861 (1.00)
S58	22,762 (1.06)	14,199 (1.25)	36,961 (1.12)
S60	24,315 (1.13)	14,237 (1.26)	38,552 (1.17)
S63	24,154 (1.12)	19,234 (1.70)	43,388 (1.32)
H2	26,476 (1.23)	22,057 (1.95)	48,533 (1.48)
H6	31,778 (1.48)	29,243 (2.58)	61,021 (1.86)

注) カッコ内はS55を1.00とした指数  
資料：各年道路交通センサス

#### 関門断面の交通量の推移



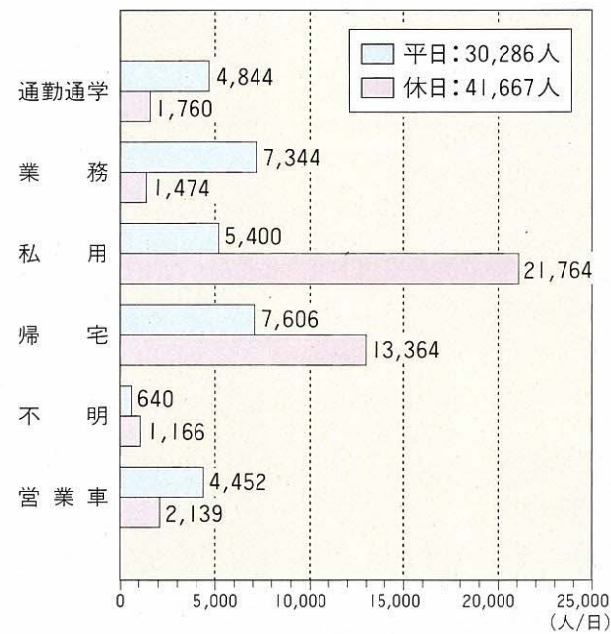


## 連携・交流の現況

山口県と福岡県の交流状況を自動車による移動人数で見ると、平成6年度の平日で約5万3千人、休日では約9万8千人を数え、そのうち、下関市と北九州市間の流動は、平日約3万人、休日約4万2千人で県間流動量の40%~60%を占めています。特に休日には、買物や観光、レジャーといった私用目的で2万人以上の人が両市間で行き来しています。

また、「下関海峽まつり」や「海峽花火大会」など海峽の地形、歴史を生かした交流イベントも盛んで、「下関海峽まつり」には毎年20~30万人の人々が訪れています。

■ 下関市~北九州市間の人の動き(自動車)



■ 山口県~福岡県間の自動車による人の動き(平成6年)

	平日	休日
下関市↔北九州市	30,286	41,667
下関市↔その他福岡県	6,119	11,274
その他山口県↔北九州市	10,365	28,109
その他山口県↔その他福岡県	6,012	16,678
合計(山口県↔福岡県)	52,782	97,728

資料：平成6年度道路交通センサス 単位：人/日

■ 源平船合戦海上パレード



■ 海峽花火大会(両市合同開催)



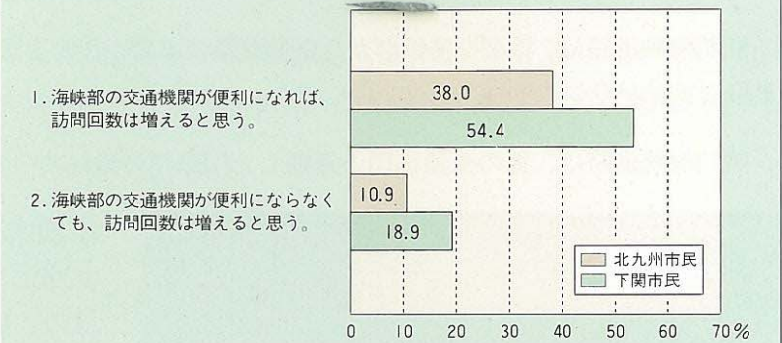
## 交流強化に向けての課題

下関、北九州両市民に対する交流、連携に関する意識調査によると、「海峽部の交通機関が便利になれば訪問回数は増える」との意見が多く、今後の交流強化に向けて、両市間を結ぶ交通施設のサービス改善が指摘されています。

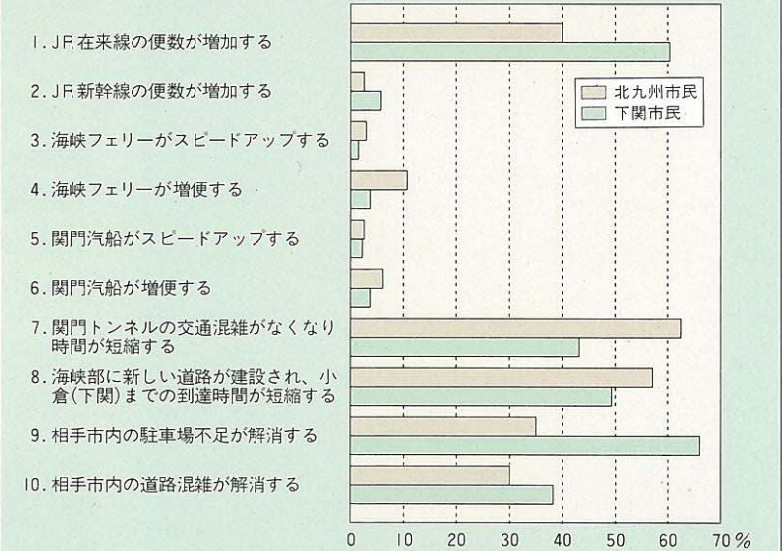
また、具体的には、「JR在来線の便数増加」、「関門トンネルの混雑緩和」、「新たな道路建設」、「駐車場不足の解消」に対する意見が多くなっています。

道路に関しては、関門トンネルの混雑緩和及び両市間の時間短縮を図る新たな海峽道路整備に対する期待が大きいものと考えられます。

■ 相手市への訪問に関する意向



■ 交通サービスの改善に対する要望



資料：「関門海峽の交流連携に関する意識調査(山口県、福岡県)」平成8年9月調査

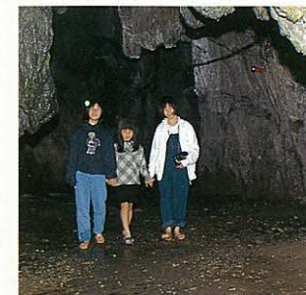
■ スペースワールド(北九州市)



■ 小倉城(北九州市)



■ 平尾台(北九州市)



■ 門司港駅(北九州市)

